

・不誠実対応-49

アルプスの森（施設代表:宇津慎史）は、悠生の死亡事件後、安全対策として管理者を含めた従業員間での情報共有が大切であると表明していた。

しかしながら、生活介護の業務を他組織に移籍するにあたり、情報共有を軽視した対応を行った。

すなわち、アルプスの森(代表:宇津慎史)は、利用者の死亡事案が発生してもなお命を守るために必要な対応がどのようなものかを知りながら、それでも対応をしないという態度を変えていないことが判明した。

(詳細内容説明)

アルプスの森(代表:宇津慎史)が以前、ホームページに載せていた死亡事件に関する説明文の中で、今後の安全対策に関し以下のような記載をしていた。

当事業所は今回の事故を受けて、担当の従業員に任せきりするのではなく、日頃から従業員同士は勿論のこと、代表者も含め、相互に確認し合うことが重要であると考えております。

当事業者は再発防止策を令和5年5月29日に吹田市役所に提出しており、今後二度と今回のような事故が発生しないように、全ての従業員が遵守事項を守るように努力して参る所存です。

(旧アルプスの森のHPに掲載されていた『事故説明文「令和4年12月9日に発生した事故につきまして」(令和5年6月12日)』より一部抜粋)

すなわちアルプスの森(代表:宇津慎史)は、代表者を含め、従業員どうしの情報共有が大切であると認識していることが解る。さらにアルプスの森(代表:宇津慎史)が吹田市に提出していた報告書に以下のような記載があった。

マニュアルが守られているかを確認するチェックリストを作成して毎日チェックしています。周知徹底して問題が生じた時は、情報公開して話し合いをしてすぐさま解決出来る様にしています。

(アルプスの森が吹田市に対して提出した報告書「令和5年9月10日」より一部抜粋)

当社が、尾崎による対応に問題ないと考えた理由は、過去に障がい者を対応してきたことがあり、大阪府が実施した強度行動障がい支援者養成研修基礎研修及び実践研修を尾崎が履修していたためです。

ただ、宇津は現場レベルにおいて、各職員が決められた手順を遵守していなかったことまでは認識しておりませんでした。今後は再発防止のため、当社の各職員が決められた手順を遵守していることを交互に確認することが重要と考えております。

(回答書[令和5年3月16日]より一部抜粋)

ここでも情報共有が重要であると認識していることが解る。しかしながら、そもそもマニュアルの存在自体が捏造であった事は既に判明している[参考資料1][参考資料2]。

また、宇津は現場レベルにおいて各職員が手順を遵守していない事を認識していたうえで、漫然と放置していたことも判明している[参考資料3][参考資料4]。

さらには過去に飛び出し事故が発生していたが、保護者や自治体に報告を行わないで隠蔽したことも判明している[参考資料4]。

この保護者や自治体に隠蔽した事故に関し、職員内での支援計画書作成に関する会議の資料において、「送迎を必ず単独では行ってはならず、その事を守らないと命に関わる事になる」と確認されている[参考資料5]。

他にも何度も行方不明になっていた利用者が居たにも関わらず、飛び出しを防ぐための安全対策を講じることはなかったことも判明している[参考資料6]。

すなわち自分達が行っている送迎方法が危険な状況であり、命に関わると自ら言及しているにも関わらず必要な安全対策を実施せず、さらには保護者には安全対策を実施していると嘘の説明をしていた[参考資料2]。

また施設に作成が義務付けられ、支援内容を定める計画書が職員と共有されていなかったことも判明している[参考資料7]。

悠生の死亡後に施設側は、上記記載の様に代表者を含めた従業員どうしの情報共有が、安全対策を実施する上で重要であると認識していると死亡事件発生後に言及していた。

悠生の死亡事件後も、アルプスの森(代表:宇津慎史)は通常通りに放課後等デイサービス及び、児童発達支援を継続していた。その後、宇津兄弟(宇津雅美 及び、宇津慎史)が起こした暴行事件において起訴されると、放課後等デイサービス及び、児童発達支援は閉鎖されたが、生活介護は継続して運営していた。

この状況下においてアルプスの森(代表:宇津慎史)は、生活介護に関しての業務を別組織の生活介護サニーに移籍した。

このため生活介護サニーが令和6年5月1日から開設した。

しかしその時のアルプスの森(代表:宇津慎史)の対応が、上記の情報共有が重要との認識しているとするものとは程遠いものであった。以下に業務の移籍に伴った生活介護サニー代表者の苦悩が解るブログ内容の一部を抜粋した。

開設10日ほど前に管理者様含めた引き続きキープレイスで働く予定だったスタッフの皆様が、突然キープレイスでは働かないと通告を受けました。

～ 省略 ～

管理者様からは併せて利用者様の引継ぎも1～2日しか行わない、プロだから引継ぎがなくてもできるでしょと仰せられました。

～ 省略 ～

スタッフの配置についてはホームのスタッフにご協力をいただき何とか人員を確保し役所にも修正の資料を送付し、何とか5月1日に開設を迎えました。

(生活介護「サニー」代表者のブログ(2024年5月21日)より一部抜粋)

上記ブログ内容から、生活介護「サニー」は新規開設に向け、アルプスの森(代表:宇津慎史)の不誠実な対応で、かなりの短期間で欠員補充、吹田市への申請書類作成を行うことを余儀なくされた。

さらには情報共有が重要であると認識していたはずのアルプスの森(代表:宇津慎史)の管理者から引継ぎの重要性を軽視する発言も認められた。

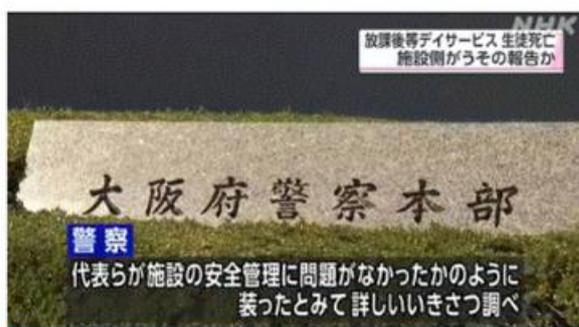
従ってアルプスの森(代表:宇津慎史)は、死亡事件が発生してもなお自分達が重要であると考えていると表明した安全に対する配慮を、自らが軽視し実行しない選択を行っていることが解る。

[参考資料 1] 2023 年 12 月 13 日 NHK

関西 NEWS WEB

中学生死亡 施設側 “運転手マニュアル守らず”と虚偽報告か

12月13日 07時03分



「放課後等デイサービス」の大阪の施設で男子生徒が送迎車から降りた後行方が分からなくなり、その後死亡した事故をめぐる運営する法人の代表らが逮捕された事件で、当時、送迎のマニュアルはなかったにもかかわらず、施設側が自治体に対し「運転手がマニュアルを守らなかった」とうその報告

をしていたことが捜査関係者への取材で分かりました。

マニュアルは実際には事故の直後に作成されていたということで、警察が詳しいいきさつを調べています。

大阪・吹田市にある放課後等デイサービスの施設「アルプスの森」を運営する法人の代表、宇津慎史容疑者（60）と兄で社員の宇津雅美容疑者（65）は去年12月、施設に通っていた中学1年の清水悠生さん（当時13）が送迎車から降りた後行方が分からなくなり、その後死亡した事故をめぐる、安全管理を怠ったとして12日、業務上過失致死の疑いで逮捕されました。

生徒は急に走り出してしまうことがあったため、送迎車から降りる際は職員2人が必ず付き添うという取り決めを両親と交わしていましたが、守られていなかったということです。

吹田市はことし2月、施設に対する監査を行いました。事故があった当時、送迎のマニュアルはなかったにもかかわらず、施設側が市に対し「運転手が独断でマニュアルを守らず、1人で対応した」とうその報告をしていたことが捜査関係者への取材で分かりました。

マニュアルは実際には事故の直後に作成されていたということです。

警察は、代表らが施設の安全管理に問題がなかったかのように装ったとみて、詳しいいきさつを調べています。

2人の認否については明らかにしていません。

[参考資料 2] 2023 年 12 月 22 日 ytv より一部抜粋

【速報】利用者送迎で事前の取り決め守らず死亡させた疑い 放課後デイ施設の男性運転手を書類送検

12/22(金) 14:00 配信  21    



■ マニュアルは事故後に作成…施設のずさんな安全管理の実態も明らかに

この事件では、施設のずさんな安全管理の実態も浮かび上がりました。

施設の代表・宇津慎史容疑者(60)と兄の雅美容疑者(65)（いずれも業務上過失致死の疑いで逮捕）が、事故後の市の聞き取りに虚偽の説明をしていたことがわかったのです。

当初、宇津容疑者らは「送迎マニュアルを作成していたが、運転手が独断で守らなかった」と説明していましたが、その後の捜査で、マニュアルは事故の直後に作成されていたことが判明。

逮捕前の調べに「（慎史容疑者と雅美容疑者の）2人で相談して作成した」「事故が起きたのにマニュアルもないと思われるのは嫌だった」と話していたということです。

また、警察が押収した施設の報告書には悠生さんが2018年以降に3回、送迎などの際に飛び出すような場面があったと記録されていたことが分かりました。

急に飛び出して事故が起こる可能性は明らかで、それを認識していたにもかかわらず宇津容疑者らは1人での対応を漫然と放置していたとみられます。

宇津容疑者らの逮捕を受け、悠生さんの母親は「この事故は予測できたことで、しっかりと対応してくれればこんなことにはなってなかった。私たちは何度も施設に2人での対応をお願いして、施設側は『ちゃんとやっている』『大丈夫です』とずっと言い続けていた。でも、そうじゃなく、何回も1人でずさんに対応して、それをずっと隠し続けていた。信じていた分、本当に裏切られた気持ちで悲しくて悔しい。(宇津容疑者らには)きちんと真実を明かしてもらいたい」と話しました。

[参考資料3] 2023年12月14日 NHK

関西 NEWS WEB

吹田 放課後等デイサービス生徒死亡事故 5年前も行方不明に

12月14日 11時34分



「放課後等デイサービス」の大阪の施設で男子生徒の行方が分からなくなり、その後死亡した事故をめぐって運営する法人の代表らが逮捕された事件で、この生徒が5年前（2018年）にも送迎車から降りた後、一時、行方不明になっていたことが分かりました。

この時も両親との取り決めを守らず

職員が1人で対応していたということで、警察が詳しいいきさつを調べています。

大阪・吹田市にある放課後等デイサービスの施設「アルプスの森」を運営する法人の代表、宇津慎史容疑者（60）と、兄で社員の宇津雅美容疑者（65）は、去年12月、施設に通っていた中学1年の清水悠生さん（当時13）が送迎車から降りた後、行方が分からなくなりその後死亡した事故をめぐって、安全管理を怠ったとして業務上過失致死の疑いで逮捕され、14日、検察庁に送られました。

施設側は当時、職員2人が必ず付き添うという両親との取り決めを守らず、1人で対応していたということです。

その後の調べで、この生徒が5年前の2018年にも送迎車から降りた後、一時、行方不明になっていたことが警察への取材で分かりました。

その日のうちに近くの水路に入っているのが見つかり保護されましたが、この時も職員が1人で対応していたということです。

警察は、こうした対応が常態化していた疑いがあるとみて、詳しいいきさつを調べています。

2人の認否については明らかにしていません。

[参考資料4] 2023年12月22日 NHK

関西 NEWS WEB

放課後等デイサービス生徒死亡 4年前にも 行方不明 報告せず

12月22日 17時29分



「放課後等デイサービス」の大阪の施設で男子生徒の行方が分からなくなり、その後、川で死亡した事故をめぐって運営する法人の代表らが逮捕された事件で、この生徒が4年前にも行方不明になり、現場の川に飛び込もうとしているところを保護されていたことが分かりました。

施設側は両親や自治体に報告していなかったということで、警察が詳しいいきさつを調べています。

大阪・吹田市にある放課後等デイサービスの施設「アルプスの森」を運営する法人の代表、宇津慎史容疑者（60）と兄の宇津雅美容疑者（65）は去年12月、施設に通っていた中学1年の清水悠生さん（当時13）が送迎車から降りた後、行方が分からなくなり、その後、近くの川で死亡しているのが見つかった事故をめぐって、安全管理を怠ったとして業務上過失致死の疑いで逮捕されました。

施設側は当時、職員2人が必ず付き添うという両親との取り決めを守らず、1人で対応していたということです。

警察のその後の調べで、この生徒が4年前の2019年にも送迎車から降りた後、行方不明になり、現場の川に飛び込もうとしているところを職員に保護されていたことが分かりました。

警察によりますと、施設側はこの時も1人で対応していましたが、両親や自治体には報告していなかったということです。

調べに対し、宇津代表らは事実関係を認めたくらんで、「自治体の監査を受けるおそれがあったので報告しなかった」などと供述しているということです。

警察は事故の可能性を十分に認識していたにもかかわらず、その後も対策を怠ったとみて詳しいいきさつを調べています。

また、警察は事故当時、送迎車を運転していた48歳の男性職員を22日、業務上過失致死の疑いで書類送検しました。

容疑を認めているということです。

[参考資料6] 2023年12月15日 関テレより一部抜粋

放課後デイ施設で中学生が死亡した事故 業過致死容疑で代表ら再逮捕 2人必要な「送迎スタッフ」1人しか配置せず 増加するデイ施設に『制度が追い付いていない』と専門家

12/15(金) 20:04 配信  47     



さらに、悠生さん以外にも行方不明になった利用者がいたことが分かりました。宇津容疑者が同じ建物で運営していた18歳以上の障害のある人が通う施設でも、何度も行方不明になる利用者がいたのです。

【元職員】「送迎の車に乗せるときに（出て）行っちゃった。いつもならついていって助手席に乗る子やけど、違う方向に行ったらしくて。（飛び出しは）何回かあったらしい。私がいたときは1回だけやったんですけど、『こいつ何回もやってるねん』って（他の職員が）言っていて」

逃げ出した利用者は近くの飲食店で見つかりましたが、その後、飛び出しを防ぐために新たな対策が取られることはありませんでした。

[参考資料 7] 2023 年 12 月 15 日 関テレより一部抜粋

放課後デイ施設で中学生が死亡した事故 業過致死容疑で代表ら再逮捕 2人必要な「送迎スタッフ」1人しか配置せず 増加するデイ施設に『制度が追い付いていない』と専門家

12/15(金) 20:04 配信 47

8/カンテレ

■ 支援内容の計画書は職員に共有されず



関西テレビ

そして、他にも大きな問題がありました。

Q.支援計画書を見たことは？

【元職員】「ないです。“（利用者を）見たら分かるやろ”って言われるんですけど、分からない子もいるんですよ。口頭で言われるだけで、自分でメモを取って」

施設に作成が義務付けられ、支援内容を定める計画書が職員と共有されていなかったのです。